釣れ釣れなるままに

２０１１年思い出の釣行記 PART.　５

ぼくが釣るコツ教えられまーした

鹿島釣狂

オノドリ岩での釣果

とんとん会

☆開 催 日	平成２３年７月３０日		
☆開催場所	エリモ港～エリモ岬港		
☆入釣場所	オノドリ岩		
☆釣　　果	アブラコ	４１６　㎜	４／１２
	カジカ	３１３　㎜	１／　５
	重量	４２０　０ｇ	
☆成　　績	合計点数	１１４９　点	
	成績	準優勝	

同じ岩見沢市で組織されている「とんとん会」の大会に参加した。「とんとん会」は金曜日出発して土曜日の釣りとなるので、大会で混み合う日曜日とは違い、あずましい釣りが出来るのが魅力的だ。釣遊会例会では手が出せそうもない有名釣り場で竿が出せるのだ。

夏枯れのこの時期、どこに入ったらよいのだろうか。過去の『北海道のつり』の記事に「オンドリャー　オノドリ岩の・・・」と掲載されていたのが印象的で記憶に残っている。オノドリ岩は、島氏とのエリモ方面の下見で一度だけ１時間ほど竿を出したことがある。島氏はすぐに４０㎝程のカジカを釣り上げたが、海藻が少ない印象でアブラコの顔は拝めなかった。近年も釣り新聞などでは時々大物の記事が掲載されているところをみると、オノドリ岩は健在のようで、本日はここに入ってみることにした。

指定された集合場所に着くと釣遊会仲間の西川氏、岡氏がいた。釣遊会例会で入った坂岸で不調だったが、その後の個人釣行でリベンジを果たしたはずなのだが、まだ不満が残っていたらしい。再度坂岸に向かうという。

バスの中での宴会は釣遊会に勝とも劣らない。次から次へと差し出される手料理に舌鼓を打ちながら過去の釣り歴を披露して宴会は絶好調に盛り上がる。鹿撃ちをする者がおり、鹿のヒレ肉のチャーシューが酒を進ませる。山菜採りにも長けた者がおりフキやワラビの煮物が絶品である。自家菜園が趣味で、退職後、トラクターを購入し３反（３０００㎡）ほどの畑を耕作している者もいるらしい。

矢根氏が「旗場のサキ」か「オノドリ岩」に入るかどうかと迷っているという情報を聞きつけ、「オノドリ岩」に案内してもらうことになる。国道からの坂道は、砂利でズリズリと滑り落ちるような急勾配で慎重に足を運んだ。会員の矢根氏はすぐに竿を出したが、私は気楽なもので、２時まで竿を出さないで周辺を散策する。航空写真では３００ｍ程右に大きな溝があったようでその溝まで歩いてみる。更に矢根氏の所に立ち寄ってから左の方に進んでみる。何カ所か溝を確かめて気に入った所で荷を下ろす。帰り際に坂道を上がった所から眺めるとなかなか良い場所に入っていたなと思う。

ハゴトコが来た。次にタカノハだが３５㎝未満なのでリリースする。２５㎝級のカジカが３匹、アカハラ３０㎝と続いた。大きなアタリで合わせると、大物である。竿が大きく曲がって止まってしまったが強く引くと昆布根からズルッと抜けた。タコのような感じも

する。しかし、またまた途中の根に入られてしまった。今度は強く引いても抜け出てこないので、仕方なく仕掛けを切ってしまった。切ってしまうとタカノハだったかも、もう少し丁寧にやりとりしていれば良かったかもといろんな事を思ってしまった。

矢根氏は４時にオノドリ岩の先へと渡っていって正面で打ち始めた。私は、安全を考えて５時に矢根氏の右隣にある一段高い岩に乗った。沖に岩が連なって何とも大物が出そうな雰囲気を醸し出している。６時、アタリのでなかった矢根氏が左の盤に深い溝を超えて出ていってしまった。

アブラコ４０㎝弱が出た。右の方に遠投した竿から嫁候補のアカハラを超えるカジカも上がった。午前９時、本日の婿となったアブラコ４２㎝が上がったのを最後に、オノドリ岩を後にした。私の成績は１１４９点（アブラコ４１６㎜＋カジカ３１３㎜＋４２００ｇ）で準優勝だった。盛夏の釣りとしてはまあまあ満足いくものとなった。

オノドリ岩を上から眺める。

雄冬汐岬マイカ０

☆釣 行 日　　平成２３年８月６日(土)
☆入釣場所　　雄冬汐岬
☆釣　　果　　無し

岩見沢の気温が３０度に達し、非常に蒸し暑い。８月に入って雄冬のマイカはどうだろうかと、午後から出かけてみる。湯泊岬の駐車帯で準備し、荷物を担いで下り口に向かうと、いつもは立てかけてあったアルミ製のハシゴが無い。トンネル横の回廊を渡った陰に

置いてあるはずのハシゴも取り払われていた。路肩からテトラを伝って下りる事の出来るところがあるが、大きな危険を伴いそうだ。向かいに見える日和岬では海水浴客が竿を出しているので、汐岬に向かってみた。

汐岬は湯泊岬よりは簡単に先端に行き着くことが出来た。時間があるのでのんびりと準備をしたが、晴天の日が続いたために、周辺から鼻の頭に漂ってくる臭いがきつい。磯の貝や海藻が腐って悪臭を放っているのだ。

本日は遠投してみようと２５号竿を持ち出した。２５号竿に１０号の鉛をつけたテーラ３号を結ぶ。ウキはウレタン轟３－１０で遠投は可能になったが、テーラに重い鉛を付けているのでイカが乗ってくれるのかが心配である。一方、磯竿３号４．５ｍには棒ウキ５号（ケミ５０対応）に３号テーラを付けてみた。視認性にすぐれているのに加えて波にも強く、遠投にも効果的だった。しかし、今夜はイカがいないのか道具立てが悪いのかイカは全く乗らなかった。残ねーんでした。

汐岬先端部でイカ釣りに備えて準備ＯＫ。しかし残ね～んでした。

ぼくが釣るコツ教えま～す。

ぼくに釣るコツ教えてくれま～した。

☆釣 行 日　　平成２３年８月２１日（日）

☆入釣場所　　苫小牧西港中央南埠頭

☆釣　　果　　クロガシラ３　ソウハチ１

今年のアナゴは不調で、どこも釣れていないという情報だけが流れてくる。名手の菅原

隆氏でさえほとんど釣れていないらしい。なんぼ何でもそろそろアナゴが釣れてもいい時期だと、前野氏と共に出かけてみた。定番の南埠頭は外国船入港のため立ち入り禁止となっており、中央南埠頭に向かった。赤い鉄塔下に着いてみると背中から吹いてくる風で案配がいい。今日は竿と道糸の組み合わせでどれが一番アナゴ釣りに向いているのかを確かめたくて４種用意して初の便りを待った。

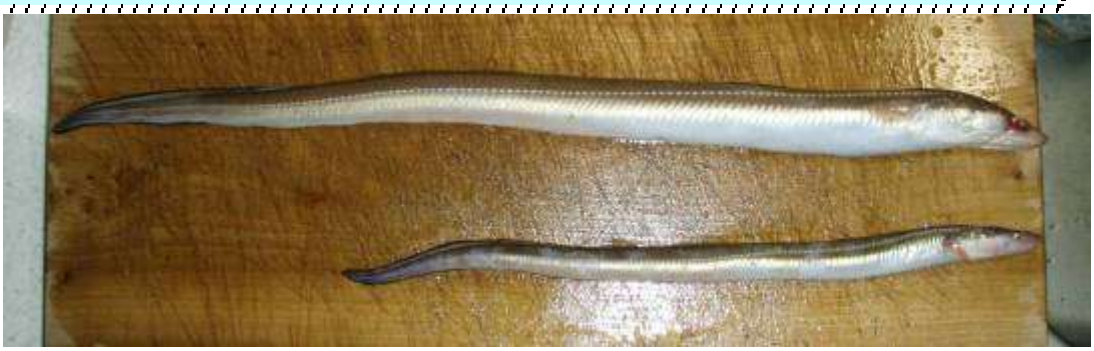
永井良春氏に出会った。埠頭の角に釣り人が入り、私たちのところに様子を尋ねてきたのだが、どこかで見覚えのある顔だった。「北海道のつり」で連載された『ぼくが釣るコツ教えまーす』の記者という事までは分かったのだが名前が出てこない。お互いに紹介しあって合点がいった。前野氏との会話から推しはかると以前岩見沢釣遊会のバスにも乗っていただいたことがあるようだ。

永井氏は「今年はタカノハを追いかけている。フンベの滝、岬トンネル、ピタタヌンケ等に通い、５０㎝以上を４枚上げた。日高は小物が多いので、昨日から友だちと一緒にタカノハ狙いで目黒漁港外防波堤に行ってきたが釣果はなかった。その釣友がアナゴを釣ってみたいというのでここにやって来た。」というのだ。さらに永井氏は、「あんたは２５号竿にも、３０号竿にも２５号のオモリを付けているが、竿にはバランスがあって竿の号数に合わせたオモリが飛距離を伸ばすことになる。伸びの少ないＰＥを使うとアタリが明確になるだけでなく、サビキ初めにヒトデが乗ったことを確認できるので早めに対策が出来る。さびいてくるうちに穴ぼこのようなところを発見できればそこにアナゴはいる。」と続けた。

永井氏に教わったことに併せて、遠投距離とアタリの感度、食い込みの違いを確かめようと打ち続けたのだが、結果的にアナゴからの音信がなく確かめようもなかった。ヒトデだけは音信のないまま竿を大きく曲げたのですけどね。残ね～んでした。

初アナゴ

☆釣 行 日　　平成２３年９月１０日（土）
☆入釣場所　　苫小牧西港南埠頭
☆釣　　果　　アナゴ２（５６㎝　４０㎝）　クロゾイ１



初アナゴを肴に一杯やろう

明日の日曜日は雨が降るという予報で、前野氏を誘うが今日は所用が入ってどうしても行けないとのことだ。土曜日の午前勤務を終えて、直接、岩見沢フィッシングセンターへ向かいエサを購入した。前回の中央南埠頭ではヒトデに懲りていたので南埠頭へと向かった。

南埠頭では、さほど人混みはなかったが、クロガシラがよいとされている所には釣り人が並んでいたのでその左端の空いた所で荷物を下ろす。そろそろ竿先ライトを付けようかなと思っていると、右隣に入った夫婦連れに５０㎝程のアナゴが来た。そして、遠く左側でもアナゴが上がったらしい歓声が聞こえてきて、否応なしに期待が膨らんだ。集中して竿先を見つめていると、私の竿にも明確なアタリが出た。しかし、残念ながらアタリの主は２５㎝程のクロゾイだった。

フワフワとしたアタリが続いて、次の食い込みに備えて竿尻で待ったが、その後そのアタリが途絶えてしまった。仕方なくエサを取り替えようとリールを巻き始めるとなにやらうごめくモノが付いている。フワー、フワー、クククッと何度も突き刺さるようなこの手応えは１年ぶりの感触だ。そして岸壁の近くに来てバシャバシャッとやるのも同じだ。メジャーを当てると５５㎝を指している。今年になってアナゴ用に購入した目の細かいフラシに入れてにんまりとする。その後すぐに４０㎝程が上がったが、小物にしては鮮明なアタリでアナゴ釣りには２５号竿にＰＥ０．８号が一番似合っているのかなと思った。

隣の年配の方が、竿先から伸びる道糸を長くして地面にオモリを付けてから振り抜き、素晴らしい遠投をしている。私は普段は岩場での釣りが多いので、竿先から出る道糸はせいぜい１ｍ程度にして地面から離して投げている。私も見よう見まねで、隣人と同じ動作をとってみた。しかし、付け焼き刃では同じように飛ばず、右方向に流れてしまった。

そして、恥ずかしながら右隣の釣り人の道糸と絡んでしまった。仕掛けを引っ張り上げると２号程度黒ナイロン糸が仕掛けに絡みついている。隣はと見ると竿先が揺れるわけでもなく平然としている。絡んだ道糸を切って解いてから、引っ張り上げると仕掛けが自分のモノと酷似していた。何とそれは自分の黒い力糸の先に付けた紛れもない自分の仕掛けだったのだ。ガクッ。その後、右隣は６本ほど釣り上げただろうか。右角に入った釣り人が遠投で２本。左側１００ｍ付近で２本の釣果があったのを確認した。

例の地元釣り師「アナグマ」がやってきて私の左に入ったので挨拶を交わす。「今年、クロガシラを３０枚ほど釣った。７月が盛期で、菱中造船所、白灯台での釣果だ。もうクロガシラはいらないので、これからはアナゴやイカを狙うのだ。」とおっしゃる。地元はいいなと思う。苫小牧港のような大きな港なら年中様々な釣りモノとの出会いがあるだろう。定年後の日長一日を過ごすにはもってこいの所だと思う。そう考えているとアタリはパタリと途絶え、周辺から焼き肉のいい香りが漂ってきた。諦めた釣り人達が酒を酌み交わしながら仲間とワイワイやり始めたのだ。私も初アナゴを肴にして一杯やろうと、苫小牧港を後にした。